

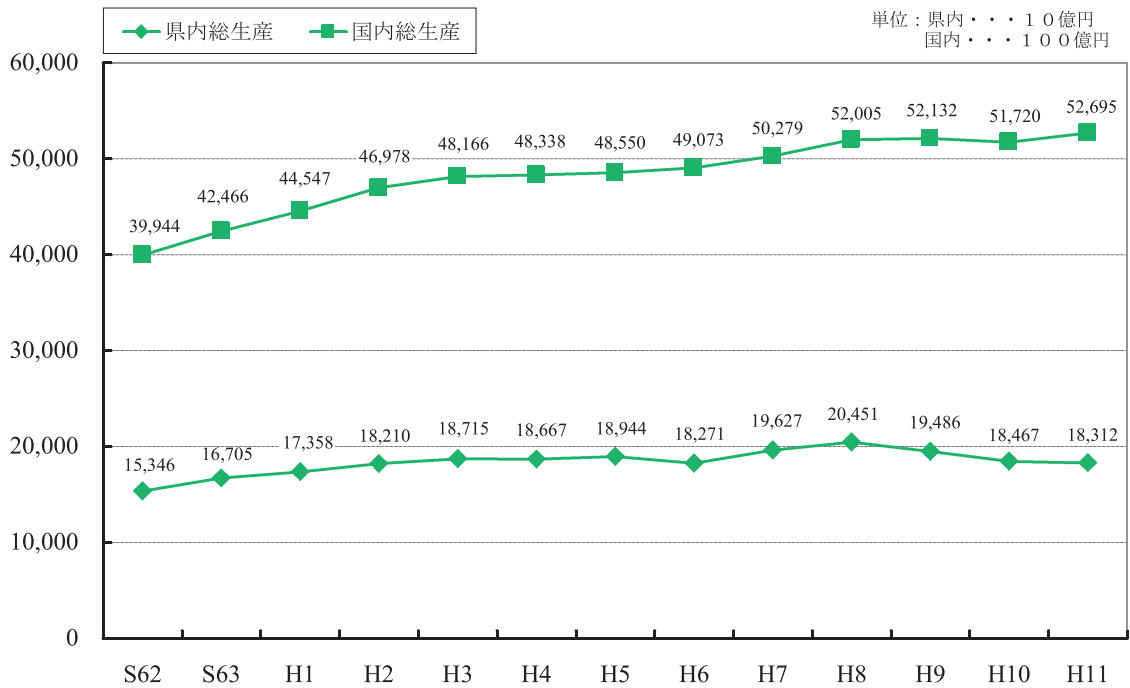
【資料一⑦：産業廃棄物排出量の将来見込み】

1. GDPの推移

兵庫県におけるGDPベース県内総生産（以下GDPという。）の推移は図⑦-1のとおりである。

GDPは平成3年度までの増加の傾向が、平成4年度以降、横這い、若しくはやや減少する傾向となっているものと思われる。

図⑦-1 兵庫県におけるGDPの推移



2. GDPと産業廃棄物排出量の推移と予測

平成4年度以降のGDPと産業廃棄物排出量の推移と予測は図⑦-2のとおりである。

図⑦-3に、比較のため、21世紀兵庫長期ビジョンの純生産、人口の将来値を指標に用いた予測排出量も併せて比較した。

(1) 推移

平成10年度までのGDPと産業廃棄物排出量を比較すると、GDPが横這い、若しくは減少傾向にあるが、産業廃棄物の排出量は増加の傾向にある。

これは、下水道の普及による、汚泥量の増加の影響が大きいものと推察される。

廃棄物処理計画案の予測では平成17年度まで下水道の普及が進むことにより、排出量が増加するが、平成17年度から平成22年度までは、排出量は減少すると見込んでいる。

(2) 予測

平成17年度、平成22年度のGDP予測額については、平成4年度から平成11年度の実績値をもとに、1次回帰式により求めた。

求められた式は

$$Y = -4.78X + 19,049$$

X : 平成3年度からの経過年数

(単位 : 10億円/年)

となり、横這い、やや右肩下がりの傾きを示している。

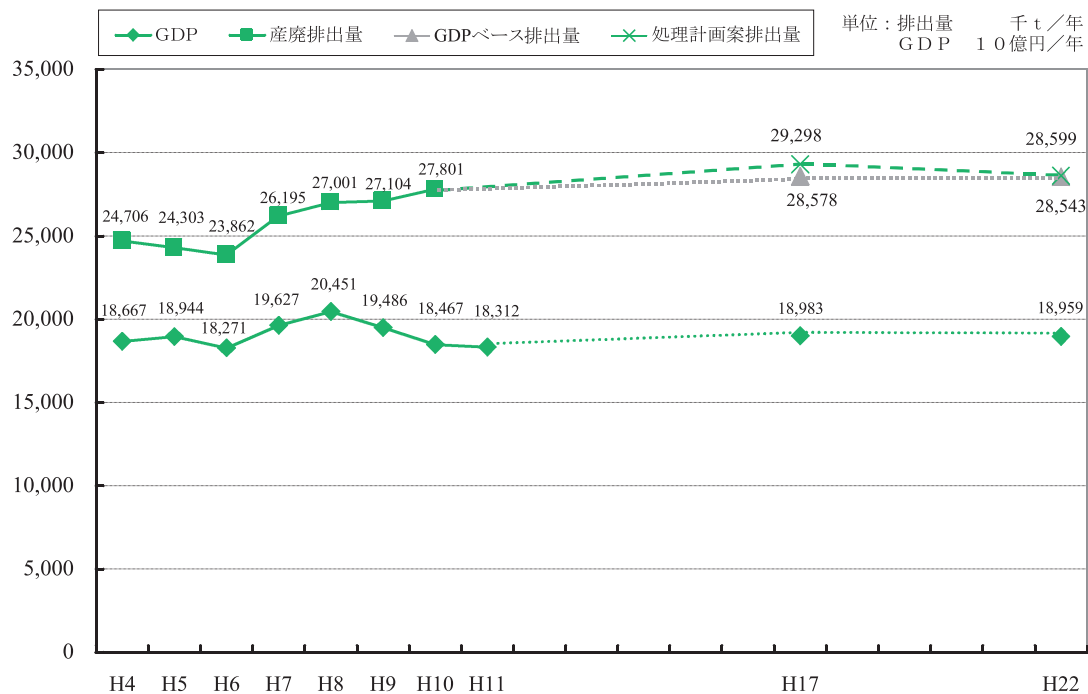
GDPベースの排出量の予測量は上記で算出したGDPの予測額を活動の指標量として、算出した。

GDPベースで産業廃棄物量を予測すると、平成17年度まではやや増加するが、平成17年度から平成22年度までは、排出量は横這い、やや減少傾向で推移すると見込まれる。

(3) 考察

GDPによる見込み量に、下水道普及の影響、産業構造の変革の影響を考慮すると、計画案の見込み量に近いものとなると推察する。

図⑦-2 兵庫県GDPと産業廃棄物量の推移



図⑦-3 兵庫県の廃棄物排出量の各種指標を用いた見込み

